

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こころ		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動スペースが広く確保でき、障害種別問わず受け入れを検討できること。	<ul style="list-style-type: none"> 個室にスヌーズレンルームを作り、五感刺激やリラックスを目的として活用している。 新鮮な気持ちで楽しく活動できるよう、様々なプログラムを月間スケジュールで行っている。 個々の心身状態に合わせ個室も活用し安心して過ごせるよう配慮している。 職員を多く配置するようにし、全ての児童に目が行き届きやすいよう平均7名の職員配置を基本方針としている。 一般型の事業所ではあるが、医療的ケアが必要な児童も受け入れられるよう看護師を配置している。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な障害像の児童が通所されているため、ひとり一人の個性に合った個別的な支援をより深め取り組んでいきたい。 より効果的な支援が提供できるよう、定期的な施設内研修、外部研修の参加など、全体的な職員の質の向上に取り組む。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	社会参加の経験の積み重ねや関係機関との情報共有が不十分。	<ul style="list-style-type: none"> 近隣地域住民と交流する機会は持てたが、まだまだ機会が少ないと感じる。 サービス担当者会議の開催頻度は増えてきているが、相談員が関わっていない児童は担当者が集まる機会がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校休業日を利用し児童クラブや他福祉施設などと交流する企画を検討していく。 計画相談を利用していない児童についても情報共有を意識し、必要であれば積極的に担当者が集まる場を設けるよう取り組む。
2			
3			